



Service

Project Design

moritomirai

カードゲーム「moritomirai（森と未来）」のご紹介

産学官民が手を携え、SDGsに関わる様々なアクションを実行する「やまなしSDGsプロジェクト」の活動の一環として企画され、山梨日日新聞社様と株式会社プロジェクトデザインが共同で開発した、陸（森）の豊かさと抱える課題を知るカードゲーム。それが「moritomirai（森と未来）」です。



moritomiraiウェブサイト

<https://www.moritomirai.com/>

日本は国土の67%を森林が占める、世界有数（2位）の森林大国です。日本人は長らく衣食住、エネルギー、レジャーなど様々な恵みを森林から得てきましたが、森の現状についての理解・関心はまだまだ低く、中には誤った知識が流布しているケースもあります。



子どもから大人まで、楽しみながら森林の現状や持続的活用に関して理解し、適切に木を切って活用しながら森林資源を循環させることの大切さを伝えるためのゲームとして、「moritomirai（森と未来）」は開発されました。

カードゲーム「moritomirai（森と未来）」はニーズに応じて様々なシーンで活用することができます。森の現状に関する正確な知識や理解がないために起きている様々な問題（木資源に関する誤解、森林の誤った活用、森に関して無関心な市民の増加）を解決する助けとなるツールです。

学校の授業で



総合的な探究の時間に、日本の森林の現状と未来に関して、自ら課題設定し、調べるきっかけを提供します。（※後述の「日本の森を取り巻く現状の図」などが自ら考え、因果関係を捉える参考になります。）

市民向けワークショップで



木材商社や住宅メーカー、家具メーカー、製紙業、森林組合など、日本の森林資源を扱う企業が提供する市民向けワークショップやインターンシップの場で、森について楽しく学んでいただくために活用できます。

企業・行政の研修で



まちや企業が丸となり、森の現状に関する理解を深め、産官学民を巻き込みながら、効果的に森や木資源を活用するためのセミナーや組織内研修の場で利用できます。

カードゲーム「moritomirai（森と未来）」は、10-40名で実施できるゲームです。（それ以上の人数で同時に行う場合は、カードを2セット以上利用するようにします。）現実世界同様、多様なゴールを持ったプレイヤーたちが、仕事や生活のアクションをしていく中で、森とわたしたちの未来が刻々と変化していきます。

様々なプレイヤーとゴール



ゲームには10種類の森に関わるプレイヤーが参加し、それぞれ異なるゴールを持っています。※ひとつのプレイヤーは1-4人の参加者でアクションを考えながら取り組みます。

多様なアクション



各プレイヤーには仕事に関するカードと生活に関するカードが6枚ずつ配られます。何を実行するかによって、まちや森の状況が変化していきます。

変わる未来

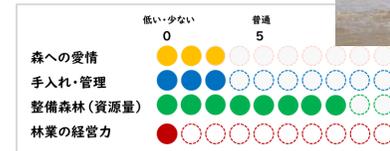
アクションの結果



発生するイベント



変化するまちと森の状況



利用したカードによって、まちや森の未来が変化し、メーターの状況によって異なるイベントが発生します。アクションを繰り返しながら、まちや森の未来の変化を促し、各プレイヤーはゴールの達成を目指します。

①森の役割と私達の生活の関わり

森がどのように私達の生活に関わっているか、体験を通じて理解を促します。

「カーボンニュートラルへの貢献」「災害の防止」「森の恵みの産業化」など、森が果たしている役割は多岐にわたりますが、多くの方が森の役割に関して部分的な理解にとどまっています。

森が抱える様々な可能性と問題を知ることと、そのために私達ができることを、アクションとその結果、状況によって生じるニュースによって伝えます。



②持続可能な森づくり

森という存在が身近ではなく、遠くに感じられる人も多いと思います。しかし、誰もが「山を訪れる」「木製品を買う、使う」「森の食材を生活に取り入れる」などの活動を通じて、森と人との共生を手助けし、健全な森を育てることに貢献することができます。森に興味や愛着を持ち持続可能な森をつくるきっかけを与えます。



③協働歩調の大切さ

豊かで健康な森は、一人の活動、ひとつの組織で実現されることはありません。様々な市民の活動や、様々な組織の活動が複合的に絡み合って初めて実現するものです。10種類の組織や市民が、各々好き勝手に行動するだけでなく、どのような森を作りたいか、考え、発信し、協力し合うことで初めて、「森と私達の未来」が明るいものになることを伝えます。



④経済活動と森林資源の好循環を生むことの大切さ

一度人の手が入った人工林は、手入れし管理し続けなければ健康に育ちません。定期的な間伐に加え、育った木材や周辺の産物が商品として流通し、経済的にも森林資源的にも持続可能な状態が保たれることが大切です。

手入れによって増える森林資源は利用することによって減り、適切に経営がなされていれば、持続可能な森作りを助ける収益に繋がります。

